

平成 2 5 年度第 6 回

流山市地域包括支援センター及び地域密着型サービス運営協議会議事録 要旨

1 開催日時

平成 2 6 年 3 月 1 3 日（木）

1 6 時 0 0 分から 1 7 時 5 5 分まで

2 開催場所

3 階 3 0 6 会議室

3 出席者

大津委員、鈴木（美）委員、黒田委員、安藤委員、渡部委員、小山委員、越智委員、奈良委員、岩井委員、大久保委員、
出席 1 0 名・欠席 6 名

4 議題

（ 1 ）地域密着型サービス事業所の指定について

（ 2 ）介護予防支援事業所（北部地域包括支援センター）の指定更新について

（ 3 ）地域包括支援センターの職員変更について

（ 4 ）介護予防支援に係るケアマネジメント業務の委託事業所承認について

（ 5 ）平成 2 6 年度地域包括支援センター第三者評価スケジュール(案)について

（ 6 ）第 3 次一括法の施行による地域包括支援センターに係る基準に関する条例の制定について

（ 7 ）その他

5 議事（要旨）

・会長

本日の出席状況について、出席 10 名、欠席 6 名で、半数以上の出席により本協議会の成立について報告する。

議題（１）について、事務局から説明を。

・事務局

グループホームガーデンコート南流山の新規指定について説明します。

申請者は株式会社ヘルシーサービスであり、場所は流山市木地区 107 番街区 9、14 区画である。サービス内容は、認知症対応型共同生活介護・介護予防認知症対応型共同生活介護である。

2 ユニット 18 名で開設予定であるが、1 ユニット 9 名から開設し、7 月を目途に 18 名開設予定。施設概要等については、資料のとおりです。運営基準と人員基準について、現地確認と事業者へのヒアリングをしている。結果については資料を参照していただきたい。

協力医療機関は、いけだ内科小児科クリニックとほぼ合意しており契約を早急におこなう。介護老人福祉施設等との連携については、特別養護老人ホーム月の船との連携体制を調整している。

事務局からの説明は以上であり、協議会の許可をいただいて事業者を入室させ、説明をさせたい。

・会長

入室を許可します。では、事業者より説明を。

・事務局

グループホームガーデンコート南流山の整備運営をしている株式会社ヘルシーサービスから整備運営と会社の方針等について 15 分程度で説明をお願いします。

・事業者

会社概要について、1985 年千葉市に本社を設立。従業員 650 名。総売り上げは 20 億円。

近隣市だと松戸市、我孫子に事業展開している。千葉県以外には神奈川県・埼玉県・宮城県で事業展開している。

訪問介護、訪問入浴、グループホーム、小規模多機能、有料老人ホ

ーム、居宅介護支援事業所、計25箇の拠点で活動している。地域密着型サービス事業をメインでおこなっており、グループホームを千葉県内10ヵ所、神奈川で1ヶ所運営している。

流山市の高齢者の方々や地域の方々に少しでも社会資源として活躍できるようにしていきたい。

認知症ケアは楽しい部分もあるが難しいと感じる局面がある。掘りごたつや檜を入れ、和を取り入れている内装にしている。入居者の方には、近所に買い物に行くといったこと等を通して、出来るだけ外に出かけるようにしたい。地域に根付くために、地元で買い物をしたりし、地元の人との交流を大切にしていきたい。

施設周辺には目印がなく、町がまだ形成されていない地域である。今後、住民が増えて町が活性化していくなかで、少しでも地域に貢献できればと考えている。

ご家族が認知症で困っている方や入所施設を考えている方に貢献できればと思う。

施設の備品については、全てIHコンロを使用しており、基本的には火の元の心配はない。居室は、介護用ベッドを12部屋分入れている。浴槽は機械浴が出来るようにしている。トイレは車いす用が4つ、普通のトイレが2つ。1,2階ともに掘りごたつを入れている。

今週の日曜と月曜日に内覧会を実施する。実際に見学をしていただいて、選んでいただきたい。

・会長

ヘルシーサービスの説明を聞いて、事業者もしくは事務局に質問がある方はどうぞ。

・委員

看取りをどう考えているか。

・事業所

社の全施設で、お客様の希望があれば出来る限り対応している。流山市においても、協力医療機関と協議し連携しながら出来る限り対応したい。

・委員

パンフレット内のコンセプト以外に付け加えることがあれば教えて

いただきたい。流山市を選んだ理由や魅力は何か。認知症の進行を遅らせるような技術があれば教えていただきたい。他のグループホームとの違いや売りは何か。スタッフの定着性について答えていただきたい。

・事業所

常盤平の施設では、42名雇っていて、1年間で3名退職した。病気等のやむを得ない理由により3名のみ退職した。

風通しの良い職場を目指している。常盤平の施設では、ケアマネジャー・現場の主任・サブ主任の4名が事務方で仕事をしている。困っていることにいち早く気づきアドバイスをするようにしている。実際に働いて覚えることが多い仕事であるため、困っていることに気づくようにしている。時々面談をおこなったり、仕事外でご飯を食べに行ったりして、職場で働くことに充実感を感じられるような運営を目指している。

他グループホームとの違いや売りは、まだお客様が入居されていない状態なので全くの白紙の状態であるが、スタッフの和を大切にしてお客様の笑顔を引き出せるような全員が同じ方向を向き前に進んでいけるよう取り組んでいく。

外に出て地域の人に触れることが必要である。入居者のストレスをためないように、仕事や趣味等を継続できるように運営していきたい。船橋の施設では、口腔ケアを心がけており、訪問歯科の先生を呼んで研修をし、現場の職員に伝えて実行していった。そのおかげで、他の施設と比べ、虫歯等が少ない。そのようなあらゆる経験を活かしていきたい。

流山市の営業を担当していて、何らかのサービス提供をしていきたいと思っていた。今回の公募があり募集させていただいた。介護保険計画に書かれている市民参加型の考えに感銘を受け、流山市の認知症の対策や高齢者の介護の対策について市民の方と一緒に考えて実行していきたい。

・委員

スタッフは、法人内の職員を配置するのか、それとも地元の人の採用を考えているのか。

・ 事務所

10月中旬からスタッフの募集はしているが集まらなく、先月ぐらいからようやくスタッフの採用が出来るようになった。流山市民のスタッフもいるが、新松戸に隣接しているため、松戸の人が多い。

・ 委員

流山の風土を考えると、買い物も雇う人もなるべく流山の方が良いかと思う。

・ 委員

料金は全体的に見ると安く感じられる。レクリエーションの経費やおむつ代は、別途で請求するということで良いか。

・ 事業所

その通りです。

・ 委員

職員の定期的な研修や日常のスタッフの指導等について教えてほしい。

・ 事業所

研修については、月1回おこなう。他の施設の管理者が来ておこなう研修がある。外部研修にも参加していく。研修後のチェックやフォローを大事にしている。

よそよそしくなく、幼稚に扱わないよう指導する。家族が見て不快な思いをしないようなマナーを心がけ、必ず見られている立場であることを自覚するようにしている。身体拘束は絶対しないようにしている。拘束・抑制しないケアを大切にしている。

職員が使うドアと共用部分のドアの色を分け、入居者がわかりやすいようにしている。

家族との付き合いを大切にしており、家族に来ていただいて協力していただくところは協力していただく。面会に来やすく、外に連れて行きやすいような環境を整えたい。

・ 委員

入居者が、孤独になるような事はないようにしていただきたい。

・ 会長

採用要件の人にどのような人がいるのか。9名の運営方針と18名

の運営方針はどうなっているか。本社のバックアップ体制はどうなっているか。

・ 事業者

2ユニット目の計画作成担当者は雇っており働いている状態である。新卒卒の採用も考えており、人の充足を図っている。2ユニット目の運営方針は、お客様像が見えない中で考えることは難しいが、ユニットごとで競いあうようにして良いサービスを導いていくようにしたい。現場のリーダーの工夫で、様々な取り組みをおこなっていく。ユニット会議で入居者のケア内容を確認していく。ユニットが競い合って、一緒になって良いケアを出来るようにしていきたい。

本社にはコンプライアンス室があり、全事業所のコンプライアンスのチェックを年3回おこなっている。研修は、管理者・計画作成担当者・リーダー・主任に役職ごとの研修をおこなっている。

・ 副会長

施設に入居した人で、家に戻りたいという人がいた場合どうするか。

・ 事業者

寄り添って対応していきたい。可能であれば、自宅に一緒に行って対応する。毎回対応することは難しいが、出来る限り本人の気持ちに寄り添って納得いけるような形で対応していきたい。

入居したばかりで人間関係が出来ていない状態での対応が非常に難しい。本人の意思を無視したような言動はあってはならない。寄り添っていくことが大切。入居者が自分の居場所が見いだせて、活動が出来るような働きかけが出来るようにしていきたい。

・ 委員

他の入居者もいる中で、帰宅願望のある方の対応は大変であると思うが、頑張っていたきたい。

・ 会長

意見が出尽くしたので、事業者の退席をお願いします。

・ 事務局

事業者を退席させます。(事業者退席)

・ 会長

グループホームガーデンコート南流山の新規指定については、委員

の意見をふまえて適切に指定の手続きを進めていただきたい。

つづいて、特別養護老人ホーム春の苑と小規模多機能ホームほのぼのかんの指定更新について事務局の説明をお願いします。

・事務局

委員の意見で、地域密着型サービス事業所の一覧表を出してもらえないかということがありましたので、資料を追加しました。

特別養護老人ホーム春の苑の現場での点検は済んでいるかとの質問をいただいている。この件については、2月18日に現場で担当職員と施設職員でヒアリングを実施している。

地域密着型特別養護老人ホーム春の苑は、平成26年3月31日で指定有効期間満了となる。そのため、社会福祉法人あかぎ万葉から平成26年1月30日付で指定更新申請書の提出があった。申請書類と平成26年2月18日事業所でのヒアリングで基準を満たしていることを確認した。

29名定員で現在満床である。

委員から、年2回の職員の自己評価の資料を実態把握のために添付してはとの質問があった。職員の自己評価は、事業者指定更新の事項ではなく、提出を求めることは適切ではないと考える。参考として、施設に自己評価の概要について確認をとったところ。自己評価とは施設内の人事交換に関することであり、職員が日ごろの勤務態度を自己評価し提出するものである。春と秋の年2回におこなっていて、提出した自己評価は現場責任者や管理者が本人の育成のための資料として使用している。

小規模多機能ホームほのぼのかんは、指定有効期間が平成26年4月30日で満了になる。NPO法人まごころネットワークから平成26年2月20付けで指定更新申請があった。申請書類の審査と平成26年2月25日に事業所でのヒアリングで指定更新の基準を満たしていることを確認した。

・会長

2つの事業所の更新について、何かご意見があればよろしくをお願いします。

・ 委員

利用者は満床であるが、亡くなった人の数や長期入院の人の数等の利用者の数の変動はあるか。

・ 事務局

6月の運営協議会で実績報告をさせていただいて、1年間の利用者の数の推移を出します。

・ 委員

29名という小規模な特養であるが入所待ちはあるのか。

・ 事務局

常に満床の状態であり、入所待ちの状態である。

・ 委員

4月からの消費税値上に伴って、影響はあるか。

・ 事務局

介護報酬は全体で0.6%引き上がる、その分は利用者負担増になる。その他の自己負担分については、事業者からまだ具体的な情報が入っていない状態である。契約書の改定や自己負担分については、地域密着型サービス事業者の集団指導等で確認していきたい。

・ 委員

小規模多機能は経営が難しいと聞くが、ほのぼのかんはどのような状況か。

・ 委員

登録定員は、24名まで登録出来るということによいのか。実際は何人の登録か。

・ 事務局

最大で24名。通所の1日の登録定員は12名。実際の利用者は7名である。宿泊は4名定員。

・ 委員

サービスの偏りや、泊まりのサービス利用の偏りはあるか。

・ 事務局

特に泊まりのサービスに偏りがあるということはない。

・ 委員

現実として、小規模多機能の宿泊サービスが夜勤を配置できないと

いったような施設側の理由で自由に宿泊できないという事例も聞いており、そこが利用のしづらさであると思う。

- ・ 会長

ほのぼのかんの３つのサービスの稼働率を見れることはあるか。

- ・ 事務局

小規模多機能ホームほのぼのかんの利用率は２９．１％。他の小規模多機能では春の苑 ２５％、和 ４４％、ひまわりの家 ６６．６％（平成２４年度）である。グループホームあぜみちの稼働率７８％（平成２４年度）である。

- ・ 会長

委員の意見を参考にさせていただいて指定更新を進めてほしい。

指定介護予防支援事業所の指定更新についての説明をお願いします。

- ・ 事務局

北部包括支援センターの平成２６年３月３１日で指定有効期間が満了となることから指定更新申請があった。申請書類の審査とヒアリングから基準を満たしていることから指定更新をおこないたいために、意見をお願いしたい。

- ・ 委員

北部地域の高齢化率が高い中、センター長含め職員が頑張っている。

- ・ 委員

第三者評価の中で、介護予防のプランの数が多く業務が増えている。負担が大きくなっているのではないか。

- ・ 事務局

北部地域包括支援センターは、介護予防のケアプランについては１９２件中８２件外部委託している。介護保険制度改正後に業務量が増えることが予想される、柔軟に外部委託を活用するよう話し合っていきたい。

- ・ 委員

介護予防のケアプランについては、引き受けたくないという事業所が多いのではないか。

- ・ 事務局

介護予防のケアプランだと対象の方の思いを聞きとることに時間が

かかること、作成料の事もあり、割に合わないということでなかなか引き受けてくれる事業所が少ないという話は聞いている。

・ 委員

北部地域包括支援センターからかなりの数の委託を受けている。手間がかかるが報酬が安いという部分があり、事業所の運営に関しては厳しい部分がみられる。ケアマネージャーとしては、介護予防の計画を作ることは勉強になり、居宅介護計画書を作成しやすくなる。第三者評価の聞き取りで、東部地域包括支援センターのようにケアマネージャーの事務所がある所は、兼任という形で、ケアプランを作成するだけの人がいる。北部地域包括支援センターのように、事業所だけでケアプランを作成しきれない所は、外部委託をしなくてははいけない。

・ 委員

要支援１，２が地域支援事業になると、地域包括支援センターの大きな負担になるのでは。

・ 事務局

要支援１，２が地域支援事業になった場合にも、引き続き、地域包括支援センターが予防プランを外部委託出来るような仕組みにすると聞いている。地域包括支援センターは、認知症の対応の事や幅広く地域の高齢者が元気でい続けるための介護予防の連携作り、地域包括ケア体制作りといったやらなければならない業務量と質を求められている。人材の配置や人員について、各地域包括支援センターと話し合っていく。

・ 会長

委員の意見を参考にし、事務局で適宜進めてください。

地域包括支援センターの職員変更について、事務局の説明をお願いします。

・ 事務局

東部地域包括支援センターから職員の変更届出書の提出があった。平成２５年１２月２１日付けで、非常勤専従の事務職員１名が法人内の異動のため退職し、職員数が５名となった。平成２６年１月２１日付けで、常勤専従の社会福祉士１名を新規採用した。病院の相談員や他市の在宅介護支援センターで勤務していた職員である。東部地域包

括支援センターの人員は、３職種が常勤専従で４名である。

・会長

専門的な知識の職員がはいったということで委員共々理解している、書類に沿って、手続を進めていただければと思います。

介護予防支援に係るケアマネジメント業務の委託事業所の承認について、事務局の説明をお願いします。

・事務局

指定した介護予防新事業所３か所について説明する。

富山県富山市のケアサポートにながわについて。流山市のご家族様宅に同居する予定で転入手続きをおこなったが、ご家族様の急病により同居が延期になり富山市で生活を継続している。富山市に在る間、介護予防のケアマネジメントを受けなくてはならないとのことで、平成２５年１２月２日からの契約を承認した。

流山市加の居宅介護支援事業所マミィハウスは、他の居宅介護支援事業所に委託していたが担当の介護支援専門員が退職になり、夫と同じ介護支援専門員の担当を希望している。平成２６年２月１日からの契約で承認した。野田市のしらゆり居宅介護支援事業所については、要支援認定であった利用者が養介護５の認定になり、引き続き同じ介護支援専門員の担当を希望したため、平成２６年３月１日から委託を承認した。

平成２６年度介護予防ケアマネジメントの一部委託の承認者要件の一部を見直した。今までは、指定居宅介護支援事業所として１年以上の実績があること、担当するケアマネージャーが介護予防支援に係るケアマネジメントに係る研修を受講することが要件であったが、平成１８年以降に資格をとった介護支援専門員は、実務研修において介護予防ケアマネジメントの研修をおこなっているため、平成１８年以降の資格取得者については市の研修受講は不要とする。

平成２６年度の介護予防ケアマネジメント委託事業者については、４２か所の事業所である。いずれの事業所も本協議会において承認いただいている事業所であり、平成２６年度についてもご意見をいただき承認したい。

・ 会長

承認者要件の見直しについては、道理にかなうため見直してよい。
富山市の利用は、一時的な利用でよろしいか。

・ 事務局

一時的な利用になります。

・ 会長

流山市の基準該当していない部分はあるが、地域包括支援センターのフォローアップもあるので、承認して良いか。

・ 委員

承認して良い。

・ 会長

平成 26 年度の介護予防ケアマネジメント委託事業者の 42 事業所について承認してよろしいか。

・ 委員

はい。

・ 会長

この案件については、全て承認を得ているので事務局で進めていただければと思う。

平成 26 年度地域包括支援センターの第三者評価のスケジュールについて、事務局から説明をお願いします。

・ 事務局

平成 26 年度からは年度計画の評価を踏まえて第三者評価をおこなう。昨年度使用した評価シート内の似ている質問をひとつにまとめる作業中である。4 月中旬の運営協議会で評価シートの説明をします。4 月の末に自己評価シートを各地域包括支援センターより提出してもらおう。前回は、市役所での各地域包括支援センターのヒアリングであったが、各地域包括支援センターに半日ほど訪問し現場ヒアリングをおこなう。7 月の運営協議会では、25 年度の実績報告と 26 年度の事業計画を報告する。7 月に事業評価結果をホームページ等で公表する。前回同様の 5 名の評価委員で評価していただきたい。

地域包括支援センター窓口アンケートを実施中である（平成 26 年 3 月 31 日まで）。ヒアリング審査の時に資料として利用していただく。

アンケート結果についても、運営協議会で報告していく。

・会長

質問があればよろしく願いいたします。

日程が明確にしてあり、このスケジュールで良いと思う。

・委員

地域包括支援センターから日程等について、意見等はあるか。

・事務局

特にはない。地域包括支援センターには必要な事として意識付けしていきたい。

・委員

第3者評価おこなっている自治体は全国で3割程度しかおこなっていないと聞いている。また、市民の目に触れられる形にしていることは先進的におこなっていて良いと思う。

・事務局

平成26年度7月までに評価を終わらせる事で平成26年度下半期の事業計画に活かせる点がメリットであると考えている。

・会長

この案件については、了解ということによろしいか。

・委員

はい。

・会長

第3次一括法の施行による地域包括支援センターに係る基準に関する条例の制定についての説明をお願いします。

・事務局

条例の概略について説明させていただきます。条例案について随時報告するので、意見等をちょうだいしたい。昨年度の地域密着型サービスの基準条例の制定のように、地域包括支援センターの条例について制定するようになる。地域包括支援センターの設置等に関する基準、指定介護予防支援事業者の人員、設備、運営等に関する基準は、現在介護保険法や厚生労働省令によって定められている。それを、市で条例を制定することとなった。12月には、市議会に条例案を上程する。運営協議会において、2～3回ほど意見をいただき反映させたい。骨

格としては、厚生労働省令に則っておこなう。市の独自基準を盛り込んでいくかどうか意見等をいただいて検討していきたい。

- ・ 会長

次回以降、協議会から意見を。

その他の連絡事項はありますか。

- ・ 事務局

次回の運営協議会は、4月の上旬から中旬ごろにおこなう予定。議題は第3者評価の評価項目の説明、地域包括支援センター条例についておこなう予定。